

バレーボールにおけるルール変更・導入によるプレーへの影響

- セッターの視点から -

戸嶋 蒼 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 仲宗根 森敦

キーワード：バレーボール，ルール，セッター

1. 諸言

筆者は、小学4年生からバレーボールを続け、主にセッターというポジションでプレーを続けてきた。12年間バレーボールを行ってきた中で、何度もルールの変更・導入が行われた。選手、観る人など目的によってはルールの変更・導入はメリットでもあり、デメリットでもある。ルールが変わることによって筆者自身プレーのしやすい、しにくいルールが様々あり、プレーに影響しているのではないかと感じた。これまでルール改正についての研究は何回かされている。しかし、セッターの視点からについては明らかになっていない。本研究では、ルール変更・導入がプレーに影響を及ぼしているのか、及ぼしている場合どのような影響なのかを明らかにする。また、アンケート結果を通して、今後選手がどのような行動を取るかを明らかにする。

2. 研究方法

2000年以前と2001年以降のルール変更・導入について違いを調べる。そこからセッターに関するルールを筆者自身の考えから取り出しまとめ、筆者自身の意見だけでなく、対象者であるセッター経験者にアンケートを取る。アンケート結果を考察し今後の対策・行動を提案する。

3. 結果と考察

表1における①②③は、①センターラインを越え相手コートへの侵入は、両足より上部の身体が相手コートに触れても、相手プレーを妨害しない限り許される②ネットに触れてもプレーを妨害しない限り反則ではないが、プレー動作中にネット上部の白帯やアンテナの先端80cmまでの部分に触れたときは反則になる③ボールをプレーする動作中の選手によるアンテナ間のネットへの接触の反則、のルールを示している。アンケート結果から、ルール変更・導入はプレーに影響するルール、しないルールと人によって様々であり、感じ方や身長、見る視点によっても違いが出てくるということが明らかになった。また変更・導入されるルールによって、有利な選手やチームもあれば不利な選手やチームも出てくるということがわかった。アンケー

ト内容から考察し、まとめたものが以下の通りである(表1)。

表1. アンケート内容および考察

アンケート内容		考察
実際にセッターとしてそのルール変更は良かったのか	①のルール	プレーはしやすくなったが、相手との接触などで怪我をする可能性がある
	②のルール	①のルールと同様プレーはしやすくなったが、反則の判断が難しく安全面が保たれていない
	③のルール	安全面は保たれているが、反則を気にするあまりプレーに集中できずやりにくい
ルール変更・導入が頻繁に行われている事に関してどのように思っているか		その都度ルールに合わせた戦略やプレーに変更しないといけないため、プレーに影響が出る 人気を上げるためにも時代の変化に合わせたルール変更・導入は必要である
どのルール変更・導入が他のポジションのプレーにどのように影響しているか		ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則とし、2009年の緩和(白帯のみ)が撤回 セッター以外でもネット付近でプレーをするため、ほぼ全員が反則をしないよう意識するようになった

4. 結論と課題

今後、ルール変更・導入に合わせた戦術を考え、それに対応したプレーをすることが必要である。また、戦術を考えることは選手だけでなく指導者にも言えることではないかと考える。今回の研究は、①対象者が少なく偏ったデータになった、②アンケート調査のため、詳しい内容まで聞くことができなかった。今後の課題として、対象者を増やしより広い意見を取り入れていくことである。

引用・参考文献

吉田康伸(2003)バレーボールにおけるルール改正に伴う戦術の変化についての研究,法政大学体育・スポーツ研究センター紀要,第21号,pp.23-26